



◆凍霜害対策資材〔ローソクかす・古缶〕

早期注文とりまとめについて(重要)

下記の資材のみ、早期注文取りまとめを実施いたします。

No.	資材名	規格	必要量の目安	自己取価格(税込)
1	ローソクかす(バラ)	1kg当たり	1缶当り3kg位(1回)	11円
<p>※例年、販売しているローソクかすとは異なります。 フレコンにバラに入っているものを、個人で持ち込んでいただく箱に、自身で詰めてもらう商品になります。 また、かすの大きさはバラバラで、塊になっており、大小あり、葉や砂等が混入しておりますので、ご理解をお願いいたします。 このため、価格は安価で提供できるものです。</p>				
2	空き缶	通常缶	10a当り40缶~60缶	11円

1. 注文期日：12月9日(月)まで ※期日以降も在庫があれば、対応致します。
2. 提出場所：注文書を各流通センター・共選所まで
3. 代金決済：納品月、翌月21日JA販売CIF登録口座より引落(土日祝の場合は、翌営業日)
4. 配布日：準備でき次第、流通センター・共選所より連絡致します。
5. **留意事項：詰める用に、必ずダンボール等の箱を持参ください。**

：数量に限りがあるため、注文数量により、数量を調整させていただく場合があります。
：箱入は、例年の時期に取りまとめを予定しております。

----- キリトリセン -----

令和6年冬 凍霜害対策用資材 注文書

各流通センター・共選所へ 12/9締切

支所 _____ 組合員コード _____

氏名 _____ 電話番号 _____ ※日中連絡とれる番号

資材	数量	資材	数量
No.1 ローソクかす	kg	No.2 空き缶 通常缶	個

JAグリーン長野各流通センター・共選所行き

◆GAP手法（農業生産工程管理）について

※令和7年度より新たなGAPになる予定です。

1. GAP手法導入の目的

食品安全・環境保全・労働安全への関心が高まる中で、GAPに取り組むことにより、農産物の安全確保はのみならず、環境安全、農産物の品質向上、労働安全の確保、農作業の効率化等に有効な手法です。

また、生産された農産物の安全性や品質の確保等について消費者や食品事業者の信頼を確保する上でも有効な手段となります。

2. GAP手法導入の効果

- 1) 農産物の安全性の確保し消費者の信頼が得られます。
- 2) 記録（記帳）をもとに、農作業の見直と改善を行うことで、品質の向上やコストの低減・農作業の安全性の向上がはかれます。
- 3) 実需者（量販店、生協等）からGAP手法導入について求められており、取り組むことにより産地の評価が高まります。
- 4) 確認項目に×がある場合は、改善が必要ですので、今後取り組みをしましょう。

3. 配布内容：①提出用・控え 各1部

4. 提出期日：令和6年12月12日（木）まで

- 1) 果樹以外でもGAPのチェックシートが配布されますが、**提出はいずれか1枚**で結構です。
- 2) 配布日・とりまとめ期日については野菜・花・直売ごとの都合により異なります。

5. 提出先

- 1) 直接、各流通センター・共選所、または各地区役員さんまでお願いします。
なお、直接提出した場合は、部会役員さんへ報告下さい。
- 2) 各地区役員さんの場合は、は12月13日（金）までに提出をお願いします。

6. 記入内容

- 1) 各項目の内容を確認して、確認した日と○×△-を記入

◆凍害防止対策の徹底について

冬期の気温によっては、凍害並びに胴枯病の発生が予想される。冬期の低温によっては成木でも凍害を受け枯死するものが多いので、防寒対策を徹底する。若木で樹勢が強いものは、特に凍害を受けやすいので、丁寧に防寒を実施する。

【稲ワラによる方法】

稲わらが現状、最も効果が高い。日中の昇温がないから、日較差10～12℃ですみ温度変化が少ないため効果が高い。

- (1) 防寒の実施は、11月下旬～12月初旬に行う。
- (2) 特に3～5年生樹は特に被害を受け易いので防寒を徹底するが、それ以降の年代の樹でも樹勢が旺盛な樹は実施する。
- (3) 主幹部を稲ワラで厚さ5cm以上に巻く。
- (4) 幹の下部から上部に向けて、穂先を上にして巻き、雨水・融雪水が外に流れ落ちるようにする。
- (5) 稲ワラは濡れると防寒の効果が低下するので、シルバーポリや反射マルチ等または幅広の粘着テープで上部を10cm位覆う。
尚、稲ワラの周りをビニールで覆うと一層日中と夜間の気温差が生じ凍害が助長されるので、上部のみを覆う。
- (6) 地際部は15cm以上、盛土を行う。（接木部の上まで盛り春に取り除く）
- (7) 春（4月）に稲ワラを取り除いてからは、日焼け防止も兼ねて、白塗材を塗布する。
凍害防止のためにはワラの取り除きは遅い方がよい。

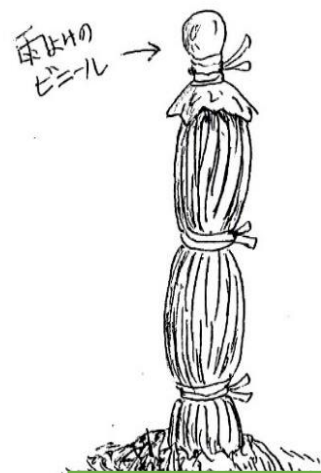


図1 苗木の防寒方法

【白塗剤による方法】

日中の温度は上がりにくいですが、夜に温度が下がるため注意する。

※ポリ巻きによる方法は、実施しない。日中は保温効果で内部が30℃以上になり、夜間は零下5～10℃の日較差があり、40℃近い激変になり湿気もたまってしまう。

【整枝せん定】

- (1) 凍害の発生が多いため、年内は実施しない（特にモモやプルーンといった核果類）
縮伐・大枝抜き・若木は、特に多いので2月下旬～3月中旬に実施する。
- (2) せん定で大きな切り口を作らなければならない場合は、必ず小さな（生きている）枝や芽を残し、長めに切る。傷口が乾く前に塗布剤を必ず塗る。
なお、小さい枝や芽の無い「デベツ」切りは、樹液が流れず傷口の癒合が悪いため、枯れ込みしやすい。春・夏に切り直す。

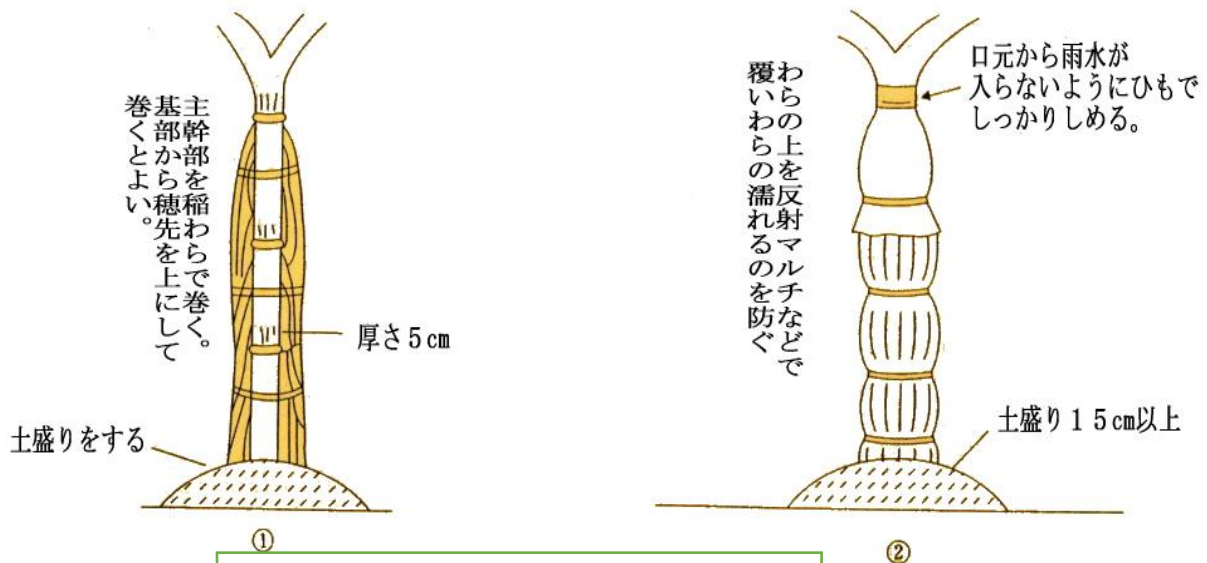


図2 ぶどうの防寒方法（果樹指導指針）

◆雪害並びに凍害対策について

1. 防鳥網をかけてある場合は、雪の降る前に取り除く。
2. 中柱や支柱を利用し、雪の降る前に棚の補強を実施する。
3. 連日の降雪があった場合は早急に雪降しを行い、棚の倒壊・幹の裂傷等「雪害」を防止する。

◆苗木管理方法（保管～定植）について

各流通センター・共選所・JAファーム・資材センター・支所経済課に備付。

◆苗木や幼木周辺の雑草抑制、乾燥防止資材の紹介

1. 商品：麻マット草乾防 1000cm（縦）×100cm（横）×1cm（厚さ）
2. 特徴：苗木等周辺を草刈り時に、間違っって切ってしまった事ありませんか？
苗木や幼木周辺の雑草抑制や乾燥防止に役立ちます。麻できており、数年使用可能。
3. 使用方法：マット中心部まで切り込みを入れ、苗木を挟むように敷く。風で飛んでしまうのが心配な場合は、反射シート止めで止める。しばらくすると、定着するので、不要になる。
施肥する場合は、外す。幼木になり、結実が本格化する頃には、凍霜害防止のため除去する。
4. 取扱場所：JAファーム・資材センター・支所経済課 「取り寄せ商品」



◆野鼠対策用サブリガードの紹介

商 品：サブリガードHP-22（幅1.7m×長さ25m×菱目22mm）※規格は、数種類。

・規格はこの他にも様々ある。切り分けて使用する。

特 徴：ポリエチレン製で長期間使用できる。（腐食しない）

せん定ハサミ等で、必要な大きさに切ることができる。

使用方法：（例）ネズミの食害が多いりんごのわい化栽培で使用。

成木に巻いて鹿による樹皮食害防止。

取扱場所：JAファーム・資材センター・支所経済課 「取り寄せ商品」

◆農薬適正使用基準について

下記、インターネットサイトで最新の情報が取得できますので、参考にしてください。

農林水産省 農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>

また基本通り、農薬ラベルを確認しながら、農薬の適正使用に努めていただきますよう、お願い致します。